

地域医療研修 研修レポート

名古屋第一赤十字病院

この度地域医療研修として新城市民病院で1ヶ月の間多くの先生方にご指導をいただき、貴重な体験をさせていただきましたので、レポートとしてご報告させていただきます。

この1ヶ月は総合診療科で実習をさせていただきました。普段は外来業務というと救急外来が中心で、その後のフォローは専門科の先生方をお願いしていることがほとんどでした。本研修での外来では自分で診た患者さんを外来でフォローし、時間の経過と症状の推移をリアルタイムで実感することができとても新鮮でした。病歴と身体診察を中心に鑑別を考えるだけでなく、日常会話を通して患者さんと接することの重要性を学び、また適切な治療介入とともに生活指導を行うことの難しさと重要性を実感しました。指導医の先生方も熱心にご指導くださり、分からないことがあればその場で **Uptodate** を検索するなどまさに「その場の1分」を実践されている姿勢に驚きました。今まで調べ物の際に敬遠しがちでしたが、今後は自分でも先生方の姿勢を真似てみようと思いました。

中でも一番衝撃を受けたことが論文の読み方です。今までは全訳をして抄読会を行ったりはしていましたが、**PECO** を意識しながらその部分を中心に読んでいくことで1つの論文にかかる時間は短縮でき、さらに重要な情報がクリアになるため論文の概要が頭に入ってきてやすく **EBM** 実践するうえでは不可欠な技術だと感じました。また論文の結果に対しても解釈の仕方で全く異なった内容になることもまれではなく、正しく論文を読むスキルを今後も学んでいこうと思いました。

研修期間は新城市民病院だけでなく作手診療所、サマリヤの丘、訪問リハビリ・看護、しんしろ助産所など多くの施設にも行かせていただきました。普段は介護保険や訪問看護・リハビリについては目にすることも少なく、自宅で介護をされている方の苦労や要望について実際の声を聞くことができたのは非常に貴重な経験となり、病院の中だけではなく退院後にも包括的に医療をすることの必要性を実感することができました。

最後になりましたが、この1ヶ月間総合診療科の先生方をはじめ多くの方にお世話になりました。当初は見知らぬ土地での研修で不安も多かったですが、先生方の熱心な指導のおかげで本当に充実した研修を行うことができました。研修時期が2年目の最後となってしまいましたが、この研修で学んだことを今後の後期研修の中でも生かしていこうと思います。本当にお世話になりました。